



1. 今年の活動

いよいよ、秋の合同剪定会が10月18日・19日に行われます。来年の黒松の成長をイメージしながら、独創的に、かつ協力しながら楽しく安全に作業しましょう。

今年の活動は、以下のとおりでした。

H20.6.8 春の剪定講習会



H20.6.21 春の合同剪定会



H20.10.11 秋の合同剪定会



また、8月6日・7日には、「のしろ白神ネットワーク」の活動に協力し、『のしろまち灯りイベント』に参加しました。



2. 会員寄稿



～危険請負師半世紀～

小林 新吉

小林新吉

昔を振り返りながら同じ時代に生まれ同じ教育を受けた自分は友人達と違う方向にむいて行く。多少拗れたように思うと、とても寂しかった。貧困家庭で育ちながらも友達は沢山の雇い人として他人の家で生活をする事になった。卒業後は農業以外の大工か機械関係の職業に就きたいと思いついた。経済的困窮と戦争との混乱の中で教育をうける国の為に軍隊教育が優先された時代の少年だ。貧困家庭の次男坊の行く先はほぼ決まっていた。契約達成後は田圃四反歩を貰える予定が二年で逃げ契約違反で二反歩だけ貰った。だが悪い・知人に今考えて居る事を相談してみたら、ウン新吉は体が小さいからな鬼にも角にも受けて見る事だ。此からは全て挑戦する心構えがなければ生きて行けないよと力強い知人の一言で勇気も沸き挑戦する。終戦後ももなく充足した警察予備隊であるが見事に不合格。身長が低いから適正検査で落とされた頭の方も友達等と違いぶん差が有る事は判つてたのでそれ程のしよつくは無かった。当時の通信教育に早稲田中学が有った世の中に出るには勉強もして置くと良いと言われ、知人の手を借りて夜間に勉強もしたが、他人から見ると毎日遊んで居るように見られ、やむなく林業・土木関係の職を転々としながら果外の林業関係に職を求める営林署で得た知識は果外の林業では非常に役に立った。特にワイヤ関係のインテリ関係では私の結婚前の職業の主眼であった。之も何時かはきつと立派な山師になるぞの思えだった。当初は山梨県で伐採作業の腕を磨く為だったが、何故かワイヤ関係の職業に就く事になって居た。秋田を代表したトンデモ無いド阿呆が此の時から誕生した。二十・三歳頃の事だった。小林君なるとかならんかねと庄屋のA氏と人夫頭のB氏

-2-

-1-

が悲壮な声での頼み事だ。私の仕事は集材機の運転で有り班も違うのだが年寄り二人で架線の荷役作業して居ての事と話を聞く事にした。ガチャンコ、空中衝突の事なんだが外に行くと貰えないだろうかと言うのだ。庄屋の頼みとあらば躊躇することなく、アア良いよと引き受けた。其の途端に膝小僧がガクガクと震え出して来た。断れば良いのに、瘦せ我慢をして引き受けるからド阿呆も良い加減にしてと言いたいた所だ。何時もの日なら若者が来て作業をするのだが、山師なんて勝手な者で朝の出がけに気分が乗らなければ勝手に休む。常に二・三人は余分に人夫を雇って居るのが何故かこの日は第一現場全員が休み結果庄屋と人夫頭が代役を務める事になった。そもそもの私の集材機の運転も一緒に働きに来た秋田果人皆で元居た運転者をからかい逃げられた結果私が後釜に座っただけ。架線には関係が無いと言え、其れでも好いのだが、年寄りが困っているのを見捨てる事は出来ない。直してやらないといけぬ其の様に思っただけでも膝小僧の震えが止まってくれない。庄屋が大丈夫かと聞く。僕はウンと返事をした。何とも困った事を引き受けたものだから、ところが初めてなので滑車も何もないよと言ったら、B氏がハイそれなら之でどうかと言って集材で使う大きな滑車とロープを持ってきた。ツガの木とトウヒの木でブレイキを作りメエンケイブルに自分の体を括り付けた。そのとたん震えがピタリと止まった。よし此なら行ける。その心は決まった。ガラガラ滑車の音と僕の心臓の音で周りを余裕は無い。ケーブルの長さは六百メートル位で中間点の衝突位置まで下るのだが、尾根から下る谷派いに張られたケーブルの高さは其れ程に高く感じ無い。下から庄屋が食い込みが厳しかったら荷物を切り離しても良いよと指示して呉れるのも良い。聞こえ何となく心強く感じた。荷物である木材を切り離し事に決めチェンを止めてある。ロープを切る。その瞬間ケーブルが上下二十

-4-

-3-

件の良い現場でなければ出来ないもので、厳しい山では架線が主流となる▼私の働いて居た現場は山梨県南巨摩郡西山村現在では早川町上湯島集落から滑河内沢を登り別当山と白剥山の中間地点で静岡との県境二千二百メートル山頂と思えない、ほぼ平らな通称七万平らと言われる所で五葉松の大木やシラビソの密集地で富士山がとて綺麗に見え大井川を挟んで南アルプスの赤石・小河内・塩見岳が素晴らしい紅葉を見せてくれる所、さて元に戻

「当時は脚物も有った」索道に滑車を掛け人が乗る事は違反であり労働基準監督署に見られると即罰金作業停止となる、半世紀前の出来事として恥ずを暴露する、乗線は一度味を占めると止められない快感と通いに乗だから朝二時間掛かって登る現場も帰りは五・六分です、下るから度胸の有る若者は殆どが乗る、自分専用の乗滑車成る物を発注する若者も居る、私も其の仲間の一人だった◎此で策動と架線と集材を簡単に説明する◎集材は広大な山で切った木を一ヶ所に集める架線は尾根、尾根を巧みに利用してトラック運送の出来る所まで下ろす、策動は登りや下りも又カーブも容易に出来るのが特徴で有る、自走するには糸

な思いは何度となく有った、一度は峰から峰へと張られたケーブルの中間地点で三百メートル近い高さの作業、荷物を切り離した瞬間の出来事ワイヤーの揺れで自分の体が飛んだ、何かに掴まろうと思つたその時胸をぎゅと締め付ける一本のロープで一命を取り止る、怖いと、思う様に成つたのは、有る高所作業現場で突然手を離して見ようかなとトンデモ無い事が頭に浮かんだ事がある、度胸どころか僕は意気地無しの高所恐怖症だつたと思う神経が狂い出し事も有るのではと、考え、以後慎重に成つた、今でも当時の事を思うとお尻からソクソクと嫌な悪寒がする事もある、若い時は体も柔軟性が有り反射神経も俊敏だが心に隙間が出るのも若さだ、あの時と反省するも実行には時間が掛かりズルズルと先伸ばしで危険を引き起こす、現在の私位の年齢に成ると細心の注意を要するが、思い通りに行かないのも私たちが年齢層だと心して行動しなくては行けない、最近、特に年寄りの仲間に入つたせ

のに予算に余裕を持たせ無いので無理な作業をする事に成る、私のような馬鹿者が上手に利用される、自分の現場なら自分たちで修理する、ここに狭い儲け方の作法が生まれる、他業者現場の依頼だつたら高額な賃金が貰える、当時営林署で日額七百円位稼ぎの時、私の場合常用で千二百円から千五百円一般より高いのは運転者としての責任料も含む修理依頼などは遠い現場で宿泊飲食費込みの三倍の賃金を貰う事も有り、長い索道の修理時は飲めや唄えで当時一日三万円貰った事も度々で親方の懐には相当入った物と思う、一度の事故でケーブルを降ろしと完成まで場所を寄つては半年掛かると言われる、だから違反をして乗線作業する命がけであり怪我や死亡も災害補償が無いので滅多な事で乗る人は居なかつた、秋田代表の大馬鹿者一人だけ危険で保証の無い仕事とわかつて、其れ以後は慎重にロープは余分に持ち歩きブレキも他の人が二本の時、私は私は四本から五本使用した危険



いか神経が固くなり、人様が笑おうが関係なく、剪定作業時にも三脚をロープで結ぶように成つた、私達仲間にはあと一、二分だと安易な考えを捨て、手間暇かけてノンビリと安全に付合えるようにしたい、女命綱は私の友達であり友人・知人・人との語り合いも、救いの綱であり、細紐でも、好い丈夫な命綱に成れるものと信じた、

架線の正しい運行

空中衝突(ガチャンコ)

修理に時この様に、して降り下る

398 7-70 20X20



～突然消えた松並木～

桜井 正一

突然消えた松並木

昔、私達の集落にはますは立派な赤松の並木があつたのを子供心に覚えてソます。ふり返つてみれば昭和二〇年頃の事です。今の小学校一年（昔は国民学校一年生）です。今は合併して北秋田市梅栄集落です。大野台の北側の社会園の手前の集落です。その集落の田圃の道路両側に大野台までの二、三余りにすばらしき赤松ロードがありました。昔の人達が植えたものだと思ひます。その時子供達が見てもすほらしききれいな松だと思つた。背が高く赤ソ皮でずうつと上の方まで枝がなくともスマートでした。その時の大きさは直経で30センチ位はあつたと思つて今90近くなる人の話でした。今もあつたらかなり大きくなつてソたでしょうね。その松も先の戦争であつてソう向くなくなつてしまつたのである。戦争に使う燃料になつたのではなかりかとの話でしたが、

-1-

戦争に招集されて行つて昭和二十三年頃に帰つて来たらなくなつて居たとの事でした。その松が今も残つて居たらすほらしき大きな木になつて天然記念物にでもなつてソるのではなかりかと思つて今頃です。能代の松山の黒松も以前に見た事がありましかが、あそこは木のむかひなり大ききでずか曲り木が多きようでした。が、やはり松は赤でも黒でも貫録がありますね。どつしりとして今、能代バイパスもこれからだんだん良くなり、ますますよう祈念して、く、でも協力出来ればと思つてあります。

-2-



『苔むすブナ』

川村 四朗

「苔むすブナ」に寄せて

県内最大の公募展、平成 19 年度・第 49 回秋田県美術展覧会〔県展〕の写真部門で 577 点応募中〔・特賞 2 点・奨励賞 19 点・入賞 233 点〕に川村さんの「苔むすブナ」が奨励賞を受賞されました。

川村さんに受賞の感想を伺いました。

応募するとき、「手数を省くために秋田市の写真店に原版と 2L〔色見本〕を送って全紙プリント・パネル張りを注文した応募作品をアトリオンに届けてもらいました。」ですから出来上がった作品は見えていませんでした。新聞で発表を見てびっくり、早朝から色々な方からお祝いの電話やご祝詞を頂戴したり 2 日後、管洋志審査員の講評を魁新聞紙上で「モチーフを思い切って真ん中に配置したことで説得力をました」を拝見して、美術展に足を運んで作品と初めて対面、受賞式で漸く実感が湧いてきました。

主題と八甲田とのご縁ですが平成 10 年以來、所属するグループの撮影会は日帰りでしたが、家族や知人とは酸ヶ湯に泊りがけでした。春 5 月のブナ林の濃霧と「根回り雪」の頃は雪原にブナの芽吹き^{つぼみ}の包皮が散って見渡す限り茶褐色のまだら模様^{まだら}に覆われます。そして新緑に濃霧^{濃霧}がたちこめ濃く淡くたなびいて冬と春が共存し季節の衣替えです。幽玄^{幽玄}というか、幻想は時間が緩やかに流れ悠久に溶け込まれているようでした。何時の間にかその魅力に撮り付かれテーマとして通っていました。

八甲田のブナ林樹林帯は懐が深く広大です。土地に不案内なため冒険は出来ません。でも好奇心で道路沿いにおっかなびっくり深入りしないで、しかも濃霧^{濃霧}が消えないうちにとはやる気持ちを押さえながら重いカメラを肩に雪に足を取られながら奇形の樹木を探しまよっていました。天恵^{天恵}というか偶然にも古色蒼然とした「苔むすブナ」に出会いました。他に類をみない珍しい根元から曲って重量感あふれ^{たゞ}遅く^{たゞ}がっちり巨幹を支えた老樹^{老樹}でした。そして遠景の濃霧^{濃霧}がブナ林の新緑をしっとり静間の演出に魅了されて無我の境地でシャッターをきっていました。何やら「苔むすブナ」の周りに樹林や天空の妖精・天女たちが舞い降りて、新しい森の「楽園物語」^{楽園物語}が生まれそうな気がしました。

今回の受賞は、八甲田さんからのご褒美〔励まし〕と多くの方々のお陰様と感謝しています。

川村四朗



3. 昨年度の活動

平成19年度は、会員数102名（H20.3.31現在）で無事に春・秋の剪定を行いました。



H19.6.17 春の合同剪定会



H20.9.22 秋の合同剪定会

また、7月21日、黒松ハウス～浅内交差点までの黒松剪定（約60本の高さ調整）を能代青年会議所OB及び有志とともに行いました。



さらに、昨年8月27日、道路愛護団体表彰において、日頃の道路愛護活動に対しその功績をたたえられ、能代河川国道事務所長より感謝状が贈られました。



H20.3.16 総会

4. 能代河川国道事務所ニュース

～能代河川国道事務所管内のニュースやイベントなどの情報を、ホームページ内にてタイムリーに発信しているものです。今回、10月16日付で秋の剪定講習会の様子を発行しましたので、ご紹介いたします～

能代バイパス黒松友の会による

黒松の「剪定講習会」を開催！

～秋のもみあげ作業～

能代市内の一般国道7号、能代港入口交差点～豊祥岱交差点間に植樹されている黒松は、ボランティア団体「能代バイパス黒松友の会」が剪定・管理を行っています。剪定は春（6月頃）の「みどり摘み」、秋（10月頃）の「揉みあげ」と年2回実施しています。

10月11日（土）、同会による「剪定講習会」が開催され、一般参加の方6名を含めた40名が受講しました。

講師の先生から、秋の剪定のポイントである、マツの「もみあげ」について説明。（もみあげは人間の顔についているものではなく、マツの古葉取りのことをこう呼ぶそうです。）

質疑・応答では、「春のみどりつみと、秋のもみあげでは違うハサミを使うのか？」「害虫のアブラムシはどんな虫か？」など、その他色々な質問が出されました。



黒松友の会、工藤会長のあいさつ



皆さん熱心に受講されていました！



実地講習のようす



背が伸びすぎた頭の部分をチョコキ！

5. 出張所トピックス

● 自専道出入口の注意喚起



(自専道・ニッ井白神 IC 入口)

昨年、縁石に車が接触した痕跡が多くありました。自専道の入口・出口では速度に十分気を付けなければなりません。そこで今年、昼夜の注意を促すため、矢印板を設置しました。

● 立木が伸びすぎ危険



(国道7号・能代市浅内)

沿道の立木の成長が著しい箇所がありました。大型車の荷台への接触・自転車への接触・これからの大雪時の枝折事故が心配でした。危険なものは所有者と協議し、対策を行っています。

● 側溝、縁石の補修



(国道7号・三種町川尻)

古くなったり、大型車等の影響で破損した側溝や縁石を管理区間全線に渡り、なおしています。住民の方々と対話しながら、より良い方向になるよう補修しています。

編集後記

事務局の不手際で「会報のしろ黒松」の発行が、1年強遅れたことをお詫び申し上げます。

現在、出張所職員は、定員削減に伴い、毎年1名ずつ減員となり現在5名（うち非常勤職員1名）であります。本会の事務局も、各種行事・案内・まとめ・作業準備などを通常業務の中で対応しており、時期によっては“てんてこまい”の時があります。

今回の発行は「会員の方からの助言」により行うことになりましたが、作業軽減・投稿誤記がないよう原稿をコピーし作成しております。

今後も上記対応で、かつ1回/年（秋の合同剪定会時配布）の発行としたいと考えております。会員の皆様から御意見・改善策があれば、事務局あて連絡願います。（次回総会時の議題として取り組みます）

追伸・・・「能代バイパス黒松友の会」の「のしろ白神ネットワーク」への参画については、幹事会にて対応を決定しております。なお、会員の皆様の御協力も、参画可能な方にお手伝いをしてもらっています。